

2016年5月6日  
おかえり沼牛駅実行委員会

旧ふるさと銀河線 上利別駅舎の貴重な解体部材を譲り受け、  
旧深名線 沼牛駅舎の保存に向けた修繕復元へと再利用する

～池北線上利別駅舎の思い出を、深名線沼牛駅舎へ受け継ぎ残す～

## 『北海道 木造駅舎保存プロジェクト』始動

惜しまれつつ解体される、旧ふるさと銀河線(北見～池田間)の『上利別(かみとしべつ)駅』(足寄町)の貴重な解体部材を譲り受け、当団体で保存活動を行っている、旧深名線(深川～名寄間)『沼牛(ぬまうし)駅』(幌加内町)の継続的な保存のための修繕部材として再利用するプロジェクト、『池北線上利別駅舎の思い出を、深名線沼牛駅舎へと受け継ぎ残す 北海道 木造駅舎保存プロジェクト』をスタートいたします。

旧ふるさと銀河線『上利別駅』は、網走線の駅として明治43年に開業、平成18年4月に鉄路廃止となるまで営業していた駅です。昭和10年に改築された木造駅舎は、周辺に陸軍軍馬補充部十勝支部があったことから、比較的大きな駅舎として建て替えられたとも言われており、廃止後も現存している歴史ある木造駅舎です。また、足寄町出身の歌手、「松山千春」さんの自伝小説をもとにした映画『旅立ち～足寄より～』(2009年公開)では、昔の「足寄駅」として映画内でも登場しています。地域にも大切に守られてきた『上利別駅』でしたが、昨年秋の暴風により建物に甚大な被害がおよび、多額の維持修繕費用が見込まれることや地区での維持管理が難しくなりつつあるなどの理由から、今年6月までに惜しまれつつ解体されることとなりました。

当団体では、昨年より旧深名線『沼牛駅』(昭和4年築)の保存や利活用の取り組みを行っており、昨年7月に開催した木造駅舎公開イベント『おかえり沼牛駅』には、町内外から約800名近くの来場者が訪れました。これまで当団体では、「幌加内町内、北海道内に残る貴重な鉄道遺産、歴史的建造物である『沼牛駅』を未永く残していく」ことを目的に活動しており、今回の『上利別駅舎解体』の新聞報道をきき、『道内に現存する木造駅舎の思い出や姿をなんらかの形でつむいでいくことができないか』との思いから、上利別駅舎を所有している足寄町様へのご相談をし、足寄町様の全面的なご協力のもと、上利別駅舎の貴重な部材・建材を譲り受ける運びとなりました。

今後は、上利別駅舎の部材を足寄町から幌加内町へと運搬したのちに、部材再利用による沼牛駅舎修繕復元の本プロジェクト実施のため、『クラウドファンディング』による支援を募り、本年秋頃の完了を目指して事業を進めてまいりますので、ご支援ご協力の程よろしくお願いたします。

記

池北線上利別駅の思い出を、深名線沼牛駅舎へ受け継ぎ残す  
北海道 木造駅舎保存プロジェクト

◆主催：おかえり沼牛駅実行委員会

◆後援：幌加内町 足寄町 ◆協力：北海道鉄道資源研究会

<https://www.facebook.com/okaeri.numaushieki>

本件に関するお問い合わせ

おかえり沼牛駅実行委員会 (本プロジェクトリーダー：横山 090-3019-1789)

メールアドレス horokanai.jyuku@gmail.com

池北線上利別駅舎の思い出を、深名線沼牛駅舎へ受け継ぎ残す  
北海道木造駅舎保存プロジェクト  
実施企画概要書

おかえり沼牛駅実行委員会

1. プロジェクト名

池北線上利別駅舎の思い出を、深名線沼牛駅舎へ受け継ぎ残す 北海道木造駅舎保存プロジェクト

2. プロジェクトの目的

地域に愛されてきた歴史的な木造駅舎の旧「上利別駅舎」（足寄町、昭和10年築）が惜しまれつつ解体されることから、同じ北海道内で現存している歴史的な木造駅舎の旧「沼牛駅」（幌加内町、昭和4年築）へと、建物部材を転用活用することにより『バトンタッチ』をし、上利別駅舎の面影や思い出を沼牛駅へと引き継ぐことにより、北海道内に現存する歴史的建造物となりつつある希少な『木造駅舎』の末永い保存を行うことが目的です。



〔旧上利別駅舎 昭和10年築 足寄町〕



〔旧沼牛駅 昭和4年築 幌加内町〕

3. プロジェクト実施における背景

近年、日本国内に現存している「近代化産業遺産」や「土木遺産」などに対する価値認識や認知度の高まりから、全国各地でも明治期以降の希少な建物や構造物の保存利活用の動きが高まりを見せています。北海道においては、明治期以降の「近代化産業遺産」に該当するさまざまな資源は、まさに「北海道の歴史」を語る上でも最重要な遺産であり、とりわけ北海道における「鉄道」の位置づけは、地方の発展や石炭などのエネルギー資源を運ぶための重要な交通手段としての役割を果たしてきました。そのことから、地域にとっての「鉄道」や「駅」の存在は、地域の発展の歴史を語る上では欠かせないものの一つとなっています。

北海道東部に位置する足寄町内に現存している、旧「上利別駅舎」は、かつて十勝管内池田町から網走管内北見市までを結んでいて平成18年に廃止となった「ふるさと銀河線（国鉄池北線）」の鉄道路線の駅として明治43年に開駅した歴史ある駅です。当駅舎は、昭和10年に改築後、平成18年に鉄道が廃止した後も、地区の象徴的な歴史的建造物として大切に守られてきましたが、平成27年秋の暴風雨により大きく損傷を受け、今後の修繕維持管理が困難であることから、惜しまれつつ解体することとなりました。

一方、北海道北部に位置する幌加内町内に現存している、旧「沼牛駅舎」(深名線 平成7年廃止)は、空知管内深川市から上川管内名寄市までを結んでいた平成7年に廃止となった「深名線」の駅として昭和4年に開業した歴史ある駅です。この駅舎は開業当初からの木造駅舎で、鉄道廃止後は地区の個人の方が所有保存を行ってきており、豪雪地帯に立地しながらも積雪による倒壊を免れ、いまなお当時の面影を色濃く残す木造駅舎です。平成27年7月には「おかえり沼牛駅」というイベントを地元有志や鉄道ファンらが協力し開催、そのままの形で保存され続けてきた木造駅舎内部の見学等々のイベントには、町内外から1日で800人近くも訪れ、改めて地域発展の歴史を物語る歴史的建造物であることが広く認識されました。しかしながら、約80年以上経過していることから建物全体の傾きや雨風による老朽化が年々増していることから、今後も継続して保存し利活用を行っていくためには、建物の修繕復元作業や全体的な補修が必要な状況です。

#### 4. プロジェクト実施までの計画案

本プロジェクトを実現するまでには、それぞれの駅舎が立地する足寄町や幌加内町の両自治体の支援をはじめとし、両地域の住民の皆さまのご理解やご支援、また駅舎修繕復元に係る建築や歴史的建造物の有識者の方々による専門的見地からのご助言等は欠かすことができません。さらに、このプロジェクトでは、現地建物調査、解体部材の運搬等、部材を使用しての修繕修復作業等が必要となり、そのためには一定程度の資金が必要となります。このことから、このプロジェクトに賛同してくださる方々からのご支援を『クラウドファンディング』という形で募り、プロジェクト実現を目指していくものとしています。

##### 〔プロジェクト完了までの主な流れ〕

- ◇両駅舎所有者や関係各所への協力後援依頼(上利別駅舎部材の譲渡等のお願いなど)
  - ◇プロジェクト実施に必要な必要経費の算出(部材運搬費、沼牛駅舎現状調査、修繕費など)
  - ◇クラウドファンディングに向けた準備(全体計画および必要経費の明確化など)
  - ◇クラウドファンディング実施(全世界へ向けた発信、協力依頼)
  - ◇上利別駅舎解体部材等の運搬搬出作業
- (以下、目標額達成の場合)
- ◇沼牛駅舎の修繕復元作業
  - ◇修繕完了後の地元地域やクラウドファンディング協力者へ向けたお礼(駅舎公開など)

※クラウドファンディング…群衆(Crowd)と資金調達(Funding)という言葉を組み合わせた造語で、インターネットを通じて不特定多数の人から資金を集める仕組みです。鉄道に関する北海道内の取り組みでは、711系電車保存(目標額234万円、支援総額412万円)や寝台特急北斗星車両保存(目標額1,000万円、支援総額1,360万円※現在継続中)などがあります。

#### 5. プロジェクト実現後について

本プロジェクト実現後は、今回の目的の一つでもある「上利別駅舎の面影や想いを沼牛駅舎へバトンタッチ(部材の転用活用)」することが最初の段階であることから、「木造駅舎」というキーでつながった約250km離れた両自治体との交流につながる企画や、プロジェクトにご支援ご協力いただいた方々への感謝の気持ちを込めたイベントを実施したく考えております。

また、さらに重要な目的でもある「北海道内に残る希少な木造駅舎を末永く保存する」ことを継続して取り組み続けられるよう、保存に必要な活動を継続的に実施していきます。これまでは、個人所有者の方が継続して20数年間保存整備活動（冬期の屋根雪おろし等）を行ってきましたが、昨年より地元地域の有志や鉄道ファンなどでそれらの活動を支援協力する体制づくりを行ってきたことから、今後も広く賛同者を募り、持続的な保存整備活動を実施していく予定です。さらには、昨年も実施した「おかえり沼牛駅」イベントのように、現存している木造駅舎を通じて地域の歴史を感じられるアットホームなイベントの定期的な開催、またかつて地域の玄関口でもあった『駅』の賑わいを少しでも残すために、周辺地域住民の方が気軽に集えるような拠点としての機能を模索する取り組みも、今後行っていきたいと考えております。



〔沼牛駅活用に向け地元有志が修繕作業 H27〕  
簡易修繕や清掃活動を十数回実施



〔おかえり沼牛駅イベント H27.7.18〕  
町の協力で駅看板を展示、朽ちた窓等は簡易修繕



かつての窓口を再現し特製グッズなどを販売



駅長住居部分は生活の様子を再現し写真等展示

○本プロジェクト企画団体 「おかえり沼牛駅実行委員会」

・事務局長 飯沼

・本プロジェクトリーダー 横山

お問い合わせ先・横山 090-3019-1789

horokanai.jyuku@gmail.com

○ 参考資料〔当団体の歴史的建造物保存関係新聞記事 2015年7月18日「おかえり沼牛駅」イベント〕  
 ※北海道新聞 2015年7月18日 道北版

北海道新聞

どうしん The Hokkaido Shimbun Press

2015年07月21日 火曜日 (大安)

ホーム ニュース スポーツ エンタメ ライフ 連載・特集 動画 イベント

道内 社会 経済 政治 地域 国際 暮らし・話題 医療・健康 科学・環境 訃報 オピニオン 人事 詳報

ニュース > 地域 > 道北 > 記事

JR旧深名線廃止から20年、旧沼牛駅にぎわい再び

07/19 07:00、07/19 15:45 更新

【機加内】1995年に廃止されたJR旧深名線（深川一名寄、121・8キロ）の旧沼牛駅舎で18日、一日限りの資料展示などで往時を振り返るイベント「おかえり沼牛駅」が開かれた。緑のソバ畑の中の駅舎は、道内外のファンや家族連れで20年ぶりににぎわった。

深名線は膨大な赤字などを理由に、100キロを越す長大路線で民営化後初めて廃止され、同駅を所有する農業坂本勝之さん（72）が駅舎の雪下ろしなどを続けてきた。「廃線20年を機にマチを盛り上げよう」と町内の若手が実行委を立ち上げ、6月から準備してきた。

この日は町の保管する「沼牛駅」の看板を掲げ、土別のバス会社「土別軌道」が現在も一日1便だけ土別市内を走らせている82年式バスを駅前の特設バス停に止めて、往時を再現。記念切符や手打ちそばも売られ、昭和の写真とともに来場者を楽しませた。家族と訪れた名寄市の公務員荻野大助さん（42）は「廃線が決まったときは本州勤務で深名線に乗れず、ずっと心残りだった。今日は思いを果たせた気分です」と話していた。（後藤耕作）

環境広場 さっぽろ2015 7/31(土)・8/1(日)・2(月) 会場 アクセスサッポロ

将棋日本シリーズ Jプロ公式戦 / こども大会

ネットで囲碁 道新 囲碁サロン

道新購読者向け どうしん電子版

ご案内 ログイン

地方版の紙面を見る

※読売新聞 2015年7月18日 北海道版

読売新聞

沼牛駅で時間旅行

2015年07月19日

「おかえり沼牛駅」の記事をお探しですか？ 最新関連記事が10+件あります。

JR深名線（深川一名寄）の廃止から今年9月で20年になるのを前に、機加内町に現存する旧沼牛駅の駅舎を当時の姿に復元し公開するイベント「おかえり沼牛駅」が18日、開かれた。

同町の住民や鉄道ファンが町おこしを目的に企画。1929年に建てられ、95年の路線廃止後は近所の住民が倉庫として使ってきた木造駅舎を、数か月かけて清掃、補修した。

ホームなどには当時の駅名板が掲げられ、内部には切符売り場を再現。運行当時のポスターや写真なども展示され、たくさんの人が眺めていた。

2015年07月19日 Copyright © The Yomiuri Shimbun

おすすめ

読売ビジネス・フォーラム

不動産を売りたい方はコチラまで M'sコーポレーション株式会社

ニュースランキング

30分 24時間

オートバイレースのゴール直後、車と衝突し死亡

民主「安倍対案派」に集り…細野・高瀬氏ら集会

書き込み怒り、投稿者特定し暴行…少年2人逮捕

数百m沖を漂流のサーファー、プロが連携し救助

左手に包帯、右手1本でバット…四球遊び出塁

都職員PC感染、4台には内規違反の個人情報も

釣り糸で10m引っ張り、漂流の中学生2人救助

東芝、歴代3トップの辞任発表…不適切会計糾弾

米警官、胸にカメラ装着拡大…黒人射殺事件後

友人にナイフ保管頼む…強姦事件後「疑われる」

Powered by popin

SNS話題記事

12 地元で安全に産みたいー第一部